

超我の奉仕賞を受賞して

上田東ロータリークラブ
村居 正雄

4月5日に開催された「2015-16年度のための地区研修・協議会」において、中川ガバナーから「R I 会長・超我の奉仕賞」を伝達いただいた。昨年8月、宮坂直前ガバナーから至急履歴書を整えるようにと電話をいただいたが、どのような賞なのか十分に理解できないまま、関連事項を記入して提出した。毎年、世界中で150名を選考する名誉ある賞であることを知ったのは、しばらく経ってからであった。2600地区からは過去に1名受賞されている。諏訪湖ロータリークラブの溝口幸二先生で、南米などの途上国で世界のロータリアン医師とともに医療奉仕活動に尽力されてこられた歯科医師の大先輩である。

今回受賞するにあたり、果してその資格があるかどうか自問自答した。私は、1991年上田東ロータリークラブに入会したが、水野ガバナーから「君はアジアの途上国で医療奉仕活動をしているそうだが、その経験と知識をロータリー活動に活用してほしい」と声を掛けていただいたことを、今でも覚えている。当時2600地区は、ネパールの小学校建設事業をどのように終結するか悩んでいた時期であった。自分なりの提言をさせていただいたことを懐かしく思い出す。

私は、1990年に厚生省が予算化した開発途上国派遣専門家研修（5カ月間）を修了し、WHO 専門家としてオセアニアのソロモン諸島で歯科保健向上プログラムに従事した。上田 RC でその経験を話したことがきっかけでロータリアンとなった。その後歯科医療協力の NGO を立ち上げて、カンボジア、ラオス、ミャンマーなどで、主に歯科関係者の育成と政策提言、制度作りに関わってきた。

1998-2001年、私は地区世界社会奉仕(WCS)委員長として、2004-5年、国際奉仕委員会副委員長として、ミャンマーの小学校建設や井戸掘り、衛生的な給水施設の設置などの事業を地区内メンバーやローターアクターに呼びかけて実施し、毎回10名を越す参加者があった。当時、ミャンマーにはロータリークラブが無かったのでマッチング・グラントの申請ができず、また地区にも予算が無かったので資金集めには苦労したが、後藤 晃国際奉仕委員長のご理解をいただき、上田東 RC と私たち NGO との共催事業として成果を上げることができた。

その後はマレーシア・サラワク州（ボルネオ）、東ティモールで活動してきた。専門の歯科保健の他に、熱帯雨林の植林や、先住民族の小学校にパソコンを寄贈するなど、上田東 RC の協力を得て継続している。国際奉仕活動は、途上国の人々の生活に触れ、その国の政治・経済・文化を尊重し、人々の自立を支援

するものでなければならぬと考えている。

また 2011 年 3 月の東日本大震災では、4 月に長野県歯科医師会と松本歯科大学の合同派遣チームの一員として被災地（宮城県気仙沼市、南三陸町）の避難所を回って診療し、その際に知り合った歯科医師から彼の所属する気仙沼 RC の窮状を聞いた。その年の 7 月から東信第二グループのガバナー補佐に就任した私は、グループ内 6 クラブのメンバーに呼びかけて 12 月に気仙沼と陸前高田を訪問、気仙沼 RC を励ますとともに被災した介護施設の設備支援を行った。

現在、私は地区ロータリー財団補助金小委員長の立場で、地区補助金運用のお手伝いをさせていただいている。未来の夢計画も 3 年目を迎え、多くのクラブが補助金を活用して地域や国際の場で奉仕活動が活性化されてきたことを大変嬉しく思います。クラブに勢いが出て、ロータリアンであることに誇りを持つメンバーが増えてほしいと願っています。

この度の受賞に際して、ご尽力いただいた皆様、これまで私の活動を支えてくださった地区ならびに上田東 RC のメンバーの皆様に心より御礼申し上げます。有難うございました。